
部長と日常

白蜜糖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

部長と日常

【コード】

N1766C

【作者名】

白蜜糖

【あらすじ】

部長が昼休みにやって来て…何ということもない日常を描いたお話

「御崎くん、萌えだよ、萌え」

聞き慣れた凜々しい声が近付いて来る。

部長か…

部長と関わって良かったことなどない。しかし、悪かったこともない。何と言うか、楽しかったと思われることが多いのだ。

身長180cmで、成績優秀、運動神経抜群、更にはかつこいいというハイスペックな男が肩を叩いた。

「御崎くん、君には当然解るだろう」

「いや、部長…まず俺は御崎くんじゃないです」

「細かい事は気にするな、御崎くん」

「いや、だか」

「現代の日本は腐れきつておる！…（省略）…この日本を救うものこそが『萌え』である！！」

途中で遮るし、意味分かんないつすよ、部長…

教室にいる男女誰もがこっちを向いた。部長は両手を腰に当てて、仁王立ち。

もつどうでもいいやと思いつながらも聞いてみる。

「部長、そもそも『燃え』って何ですか？」

「御崎く〜〜〜ん！！漢字が違っじゃないか、漢字が！『燃え』じゃなくて『萌え』だあ〜！」

頭を抱えながら叫んでる。オーバリアクションだ。

というか、何で漢字が違つと分かるんですか。それに俺は御崎くんじゃ

「御崎くんにはまず『萌え』を教えなければならぬようだねえ…」
眼が光った。それに満面の笑みを浮かべている。何か凄まじい才

「ラのようなものを感じた。

ああ…これはやばい…

「萌えとは」

終わった

昼休みが終わるまで延々と『萌え』について解説された。

部長が来たのが昼休みが始まった瞬間。昼休みが丸々潰れたことになる。

はあ…弁当を全く食べられなかったよ…

ちなみに『萌え』についての話は昼休みでは足りず、放課後も延々と聞かされた。

(後書き)

初めての作品です。
面白かったら感想ください。発狂しますので(オイ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1766c/>

部長と日常

2011年1月8日15時37分発行